

040324

## 令和3年度 修了式 校長講話

今日で令和3年度が終了しますが、振り返ってみていかがでしたか？

引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、今ここで皆さんが元気に修了式を迎えたことはうれしいことです。

先日、皆さんの先輩40期生が卒業式を迎え、立派に小川高校を巣立っていきました。その中の式辞で、はなむけとして「大人になっても発する言葉を大切に」というメッセージを贈りました。

私たちは、いわゆるSNSのおかげで、手軽に多くの情報を取得できるようになりましたが、やはり文字数の少ないツイッターなどの文では人がお互い分かり合うには限界があると思います。SNSである側面だけ取り上げてそれと相反する意見を持つ人を非難したり、よく分かっていないけどなんとなく気に食わない人に嫌がらせをしたり、「軽い言葉」のやりとりが横行しているように感じます。車の運転をするためには教習所に行って運転の仕方や交通ルールを学ぶのに、スマホは一から自分の意のままに使えるような手の届くところに存在しているので、後から使い方を学んでいかなければいけない。そこができていないと表面的なコミュニケーションによるトラブルが発生しやすくなります。

ある団体の代表の方がこんなことを話しているのを聞きました。「磨くということは、何かと何かを擦り合わせること。擦り合わせないと磨かれない。物が他の物とこすれ合うことでぴかぴかするように、人も自分と異質な人、理解しにくい人などとの摩擦を繰り返して経験するなかで人として艶やかになる。」特に皆さんのように若いうちは、一人一人が対面で他の人と付き合い多様な考え方や見方に触れ、そして自らの頭で考えること。そのためには、多くの本や新聞に目を通し、読む力を養う必要があると思います。この場で読書の重要性をお話したのもこんな意図がありました。

来年度も、若くて柔軟な皆さんが、前向きに高校生活を送る中で、勉強や読書、そしてクラスメートや部活仲間、先生とのコミュニケーションの中でたくさんの「こすり合い」を経験してほしい、そして、昨日入学説明会を行った43期生の後輩の素敵な先輩になってほしい、ということをお伝えして本日のお話を終わります。